

ここまで進んだがん治療 高知市でフォーラム



県内でがん診療に携わる医師らが患者らの質問に答えた「県がんフォーラム」(高知市の「かるぼーと」)

県内拠点病院医師 胸腔鏡手術など報告

5日、高知市九反田の市文化プラザ「かるぼーと」で開かれた「第3回県がんフォーラム」ここまで進んだ高知県のがん治療パートIII―(高知がん診療連携協議会、県、県内のがん診療連携拠点病院、患者団体、製薬各社などの共催)。県内のがん拠点病院でがん診療に携わる3医師の講演や、パネル討論の模様などをお伝えする。(小川一路)

肺がんの外科治療について 肺の部分切除術などを紹介し講演した高知赤十字病院の浜口伸正・第一外科部長兼呼吸器外科部長は「肺がんによる死亡者数は年間6万5千人を越え、胃がんを抜いてトツプ。それだけ『身近』ながんだといえる」と指摘。患者にとって身体的負担の小さい胸腔(きょうくう)鏡を使った

肺の部分切除術などを紹介し講演した高知赤十字病院の浜口伸正・第一外科部長兼呼吸器外科部長は「肺がんによる死亡者数は年間6万5千人を越え、胃がんを抜いてトツプ。それだけ『身近』ながんだといえる」と指摘。患者にとって身体的負担の小さい胸腔(きょうくう)鏡を使った

ワクチンで予防も訴え

門長は乳がんと生活習慣の関係について、「酒やたばこ、脂肪分の多い食事は控えめに。特に閉経後は適度な運動をして肥満に注意し、ビル(経口避妊薬)や閉経後のホルモン補充療法はできるだけ避けて」とアドバイス。
乳がんの減少に向け、40代以上のマンモグラフィ検査と科学的根拠に基づく標準治療の重要性を強調した上で、若年の女性は(遺伝的要因が関係する)「家族性乳がん」に注意するよう呼び掛けた。
高知医療センターの木下宏実・婦人科部長は、若い女性が増えている子宮頸(けい)がんの手術について「初期の段階で見つかれば、子宮を残す手術も選択できるが、進行していれば子宮を摘出せざるを得ない場合もある」と説明。主に性交渉に伴うヒトパピローマウイルス(HPV)への感染によって引き起こされる子宮頸がんは「子宮がん検診を受ければ、がんになる前の段階で早期発見できる上、ワクチンが先ごろ認可されたことで、予防できるが

んかでもある」として、検診とワクチン接種の必要性を説いた。
この後、堀見忠司・高知医療センター院長を司会に、森田荘二郎(医療センター)▽小林道也(高知大付属病院)▽中村章一郎(高知赤十字病院)▽原一平(高知緩和ケア協会)▽岡林孝弘(医療センター)▽藤村隆(県健康づくり課)―の各医師を交え、事前に募集した質問などを基にパネル討論。
「5年間禁煙すれば、肺がんのリスクは半減、10年間で非喫煙者とはほぼ同等になるといわれる。何歳になっても効果があるのでぜひ禁煙を」
「進行がんや再発がんなどの場合、治療の選択肢として積極的な緩和的治療を提示することがある。体に負担をかけずに副作用で苦しむこともなく、自分らしい人生を少しでも長く過ごしてもらおう意味でも「何ちゃあせん治療」もあるのでは」
「医療に関する情報があふれているが、それが正確なのか、自分にとって役立つのかを判断するにはやはり、普段から信頼できる地域のかかりつけ医を持つことが大切」
「がんによって治療法は異なるが、科学的根拠が示された、そのがんに対して最も効果のある治療、すなわち標準治療が逆に最先端治療といえるのではないか」などとアドバイスした。